

タウンミーティング（徳田地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 11 月 28 日（木） 19 時から
- 場 所 徳田公民館 2 階大会議室
- 参加者 徳田地区自治会長（徳能自治会長）、古田・高知・徳能出作・古田新出・御陣家・田滝自治会長、徳田小学校長、田滝小学校長、田滝小学校 PTA 会長、老人クラブ徳田支部長、徳田地区愛護班連絡協議会会長、消防徳田分団長、交通安全協会徳田支部副支部長、民生児童委員代表、西条里山活動隊代表
市長、経営戦略部長、丹原総合支所長、市民協働推進課長、同課地域組織係長
シティプロモーション推進課長、同課広聴係長、丹原総合支所総務課長、
同課総務調整係長、市民協働推進課地域組織係
- 傍聴者 2 2 人
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（徳田地区自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 地域課題「これからの地域づくり」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明
 - (2) 参加者自己紹介
 - (3) 意見交換
 - 6 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（徳田地区自治会長）

○会議録

1 挨拶

【徳田地区自治会長】

皆さんこんばんは。今冬最大の寒気団が来た寒い中を、タウンミーティングに出席していただき感謝する。2 回目のタウンミーティングということで、少しでも徳田が良くなれないといけないと私も思っている。今日のタウンミーティングを有意義なものにするためにご協力をお願いする。

古い話で申し訳ないが、50 年ほど昔にはコミュニティ行政が進められており、高度経済成長で税収もかなり入ってきていた時代に、ハード事業として集会所の建設などがなされ、また、地域の清掃活動等に対して補助金が出ていた。昔は、そういうお金のいる行政が行われていた。ご承知のように、そういうコミュニティ行政が行われた背景には、高度経済成長期に徳田地区みたいな田舎の農村部の若者が大都市へ働きに行き、核家族化が進んで地域が疲弊していったということがあったと思う。

今も地域づくりは各所で行われているが、やはり地域の皆さん方の気持ちがないとなかなか進められないと思う。徳田地区も自治会長を含め皆と話し合いはしているが、まだ地域づくりをやっているという体制はできておらず、これからやっていかなければならないと思う。ご承知のように人口減少、超高齢化時代であり、皆さんで一生懸命考えていきたいと思うので、最後までご協議、そして懇談をいただけたらと思う。本日はよろしく願います。

【市長】

皆様こんばんは。本当に寒い日にお集まりいただき誠に感謝する。6 月に今年度のタウンミーティングを開始し、約 5 か月間かけて全地区を回り、今日の徳田で最後になる。徳田では前年度の 3 月 25 日に開催しており、短い間の中での二回目なので、代わり映えがないことにならないように思っている。先ほど会長の言葉にもあったように、50 年前と今ではずいぶん違うので、今は今なりにやっていかなければならない。その中でどのように工夫をしながら徳田地区らしくやっていくかということもぜひともお話ししていただきながら、私共としても協働のまちづくりに汗を流してまいりたい。そして地区が抱える課題についても言いつばなしで終わるのではなくて、少しでも改善できるようこのタウンミーティングを実りのあるものにしていきたいし、次年度も開催していきたいと思っている。

田滝地区では進めているが、色々な地区のステークホルダーの皆様が集まって、横の連携をして行く事こそが重要だと思っている。自治会長だけで考えるとしんどいことも、例えば小学校を巻き込んだり、ほかのところからここを選んで住んでくれた移住者の皆様との話し合い等で見えてくるものもあると思う。今日は限られた時間だが、ぜひとも忌憚のない意見を頂戴したい。よろしく願います。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料 (1))

3 地域課題「これからの地域づくり」について《市提案》

(1) 課題等の経緯内容説明

【市民協働推進課 説明】(参照別紙資料 (2))

【田滝自治会長】(参照別紙資料 (3) 田滝まちづくり通信)

皆さんこんばんは。田滝の取り組みについて、今までの経過などを述べさせていただく。田滝での地域づくりは、16年ほど前に遡り、小学校の児童が1ケタになるという住民一同の危機感から、有志で「明日の田滝を考える会シンポジウム」という会を立ち上げた。この中のメンバーは自治会役員全員、各種団体の長、副会長の総勢37人ほどで、基本的には年1回の会合だったが最初の3、4年は年2、3回やっていた。

まずは、田滝をよく知ってもらおうと小学校のホームページを立ち上げた。それから小学校の校区外通学に関して教育委員会へ何度も陳情して認可をいただいた。自治会としても田滝のことを知ってもらう活動の一環として色々な人に来てもらおうと毎年10月に収穫祭を行っている。市民協働のアドバイザーである高崎経済大学の櫻井先生は、いらないイベントは無くそうという考えだが、このイベントは無くせんなどという感想をいただき、私たちの励みになっている。

16年経ち時代も替わり役員も代わっていき、考え方も変わってくる中で毎年の収穫祭もなかなか発展的な意見が出なくなり、思案している時に西条市が進めている地域づくりを知った。市民協働推進課に相談して、また役員間に持って帰って、もう1回盛り上げようという意見になり正式に「明日の田滝を考える会」を立ち上げ現在に至る。

今の地域づくりは各地域が同じようにはできないと思う。田滝なりのやり方、方法でやっていかないといけない。現在、毎年1回だった会合を毎月1回することにして、37人が毎月集まるのも難しいので、選抜メンバーの12人が活動している。6月に市へ申請し、正式に市の地域づくり組織として認定され補助金も少しいただき、まちづくり通信等の費用に使わせていただいている。田滝地区でもどこの地区でも同じだと思うが、時代の流れだから仕方がない、やってもどうもならないという意見はある。確かにそうだと思う。しかし、何もしなかったら本当に自然消滅と言うか、下りだけである。何かしなければ悔いも残るということで話し合い、同じ方向を向いてくれる人、地域づくりに興味を持ってくれる人を増やすことが先決ではないかと感じる。地域づくりは人づくりに繋がると思う。田滝が先行してやっているが、徳田地区も立派な人、地域づくりをした方がいいという人も沢山いると思うので、皆が話し合いをして集まっていたら田滝も徳田地区の一員として、協力させていただく。以上が田滝の今までの経過と私の思いである。

(2) 参加者自己紹介(徳田地区の好きなところ・大切なもの・守りたいものについて)

【参加者】

西条里山活動隊という市民グループの代表をしている。旧東予市生まれで、縁もゆかりもない川根に移り住んで13年目くらいだが、徳田小学校に娘が通うようになり、こじんまり感、地域との一体感とか皆が皆を知っている、アットホームな感じが魅力だと思った。川根も高齢化が進んでいるが、私たち家族のようにこの地域を知ってくれたら、移り住んでくれる家族もいるのではと思ったのがきっかけで、里山活動隊の主な活動である移住のお手伝いを始めた。徳田小学校を守りたい、徳田小学校の一体感とか小ささの規模等を発信して、それが良いという人に移り住んでもらいたいと思い現在活動している。

【参加者】

民生児童委員をやっており、社会福祉協議会の徳田支部のお世話をしているが、それぞれの団体の方が大変濃い活動をしてくださっており、赤ちゃんからお年寄りまでに届くよう地域の福祉を、皆さん方

の活動で支えてくださっていることを本当にうれしく思っている。

徳田には色んな組織が柱のようにあるが、地域づくりの説明を聞いて、その柱が結びついていないところがあるのではと感じ、特に田滝の取組みを聞き、柱同士が結びついていかないといけないと思った。

【参加者】

好きなところはあまり考えたことはないが、この自然豊かで、災害もほとんどなく、住みよいところでこれからも健康に気を付け頑張りたいと思う。

【参加者】

私が守っていききたいのは、ありきたりだが、災害のない皆が笑顔で暮らせる徳田地区である。

【参加者】

私は今年度徳田地区の愛護班の班長をさせていただいており、地域の子どもたちの活動を大事に、大切にしていきたいという思いがある。愛護班では毎年クリスマス会を行っているが、婦人会がなくなり補助金が今年は少し減った。それでも形として、地域の子どもたちが一堂に集まって楽しく過ごせる時間を作ろうと今年もなんとか頑張っている企画をして、12月7日に開催予定である。子どもたちは本当に、小さい規模のアットホームな学校で、生き生きと活動していると思う。

ICTの活用で授業の効率化も随分進んでいるように思うが、それでも徳田小学校の5、6年生と2、3年生が複式学級で、両方とも人数が複式学級としてはいっばいの16人で担任の先生が1人という状態は、先生方の多忙さ、親の負担があり、随分地域の方にも助けていただいているが、ICTだけでは解決ができていないと感じている。統廃合は考えていないということだが、現実問題としてどんどん子どもが少なくなっていく、1ケタの学年が増えていく中で、そういうことも含めて考えていただければ地域は成り立たなくなっていくのではないかと。

【参加者】

私は徳田地区の老人クラブの会長をしており、ここに住んで16年くらいになる。徳田地区の老人会は今220人、丹原では1300人くらいいて、その中で色んな活動をしているが、一番危惧するのは世話する人がいなくなり、グループ単位で老人会から抜けてしまうことである。徳田地区もすでに1つのグループが無くなっている。恐らく、いつまでもやってやと言われて皆さん困りながらやっている人ばかりだと思う。そんな中でも活動として、徳田地区で元気な独居老人44人に慰問などしている。施設に入っておられる方は私たちもおえないので、見回り推進ということをやっているが、一人で生活している人がだんだん増えてきている感じがする。

徳田で好きなところは、海拔100メートルのところで石鎚が見えるということで、古田地区に新しく家を建てられて住んでいる方とも、確かにここだったら朝日もよく見えるし石鎚も見えると話している。守っていききたいのは、老人クラブの色々な事業も、だんだん参加者が少なくなっているが、アイデアを出して、アナログ的なつきあいをずっと続けていこうと思っている。

【参加者】

徳田で好きなところは、自然が豊かで静かなところである。

【参加者】

私は田滝小学校長として赴任して2年目だが、地域の方々、色んな団体の方が子どもたちのためにすごく協力してくれ、とてもありがたいと思っている。逆に子どもたちの活躍や笑顔が地域に力を与えているとも思っている。地域の方々の、人と人が繋がろうとする雰囲気はとても好きで、田滝は校区外通学が来年度は4人になる予定だが、どんな子どもでも学校に受け入れるという姿勢でいる。地域の方々、PTAの方々もそういう姿勢でいてくれるというのはすごくありがたいと思う。

【参加者】

私は今年度から徳田小学校の校長に着任したが、子どもたちの守り隊というのがあり、児童数が54人に対して子どもたちの安全を守ってくださる地域の方、保護者の方、教員も含めて59人と、児童数よりも多い人数いるということで大変ありがたいと思った。地域で子どもたちの健全育成に対し取り組み、子どもたちを大事に思ってくくださっているのがすごくありがたい。きっとこれからもっともっと児童数は減っていくと思うが、これからも大事にしていきたいのは地域と学校との繋がりで。

【参加者】

私は18で故郷田滝から出て、約20年間故郷を離れていた。帰った理由は、都会ではなく故郷の田舎が良かったからである。これから大切にしたいものは、小学校、子どもの声である。子どもの声はパワーをくれる。そんな思いで、学校と一緒にやっていきたい。

【参加者】

私もこちらに帰ってきた人間だが、帰った時に一番感じたのは緑がすごく豊かなことで、そこが好きなどころである。自治会長になって1年になり、意識してやっているわけではないが、環境美化に何となく取り組んでいると思っていて、自分が生まれて育ったところなので綺麗であってほしいと思う。特別綺麗じゃなくてもいいが、歩いていて汚いと目につくので、環境美化については無意識のうちにしているような気がする。

【参加者】

古田新出は、徳田校区の中ですでに小学生が一人もおらず、先の見通しもたたないというのが現状で高齢化がどんどん進むが、地区としては徳田と少し違い、学校は非常に遠いが、病院は近いし、買い物に行くにも歩いてでも行けるような地区で、隣の家は子どもが居るが丹原小学校に行っている。たった15センチの水路を挟んで隣が別の村であり、徳田と一括りに言っても生活環境が全く違うので、少し考え方が違うのではと思う。

高齢化が進む中でも村の人は皆協力してくれるので、できるだけイベントは今後も残していきたいと考えている。

【参加者】

私の好きなところ、これから大切にしたいもの、守っていききたいものは全部、人情、人間ということになる。西条市が、認知症について、徘徊者をスマートフォンで見守るということを一部やっているが、失礼かもしれないが私から見ると薄っぺらく見える。120歳になればドーパミンが枯渇するのでやがては全ての方が認知症になる。そうすると皆体が動かなくなり認知症の症状が色々出る。どうすればいいかという、全ての方がそういうことをよく知っておくことである。少なくとも小学生の高学年5、6年生、中学生、高校生、大学生、一般のご存じない方も、ご家庭の中で徘徊などに対してどうすればいいかということ、普段から話し合っておくことが大切ではないかと思っている。

【参加者】

私は、大人も子どもも含めてすごく素朴なところが好きである。また、徳田地区は昔から文化的な色が濃い地域ではないかと思っている。

【参加者】

60数年間この土地に住んできて、好きも嫌いもなく、とにかく流れを組んできた。最近思ったのが、子どもはかわいいということで、小学生の食育教育の一環かなにかで協力させて頂いた中で、私の孫世代の子どもに稲のことについて話をし、今後も関りたいと思った。以前勤めている時にも機会があったが、あまり話せなかった。歳を重ねて、それなりのことは言えるようになったと思うので、また関わられたらと思う。

【参加者】

徳田地区は徳田音頭というものがあり、その中に、「見晴らしゃ千両」という一節がある。私の家からは周桑平野、西条市、新居浜市まで見え、夜の天気の良い時には三島まで見える。そういう景色が非常に好きで徳田はいいなと思っている。また、徳能の金仙寺から見る景色が非常に好きで、観光に繋がれないかと思う。西山興隆寺との関連で、何か良い方法がないかなと思っている。

これから大切にしたいものは、自分の健康である。健康づくりに力を入れて、市の医療費の財政負担を少しでも軽減できたらと思っている。

守っていききたいものは、地域の皆さんと地域である。

(3) 意見交換

【市民協働推進課】

これからも暮らしやすい徳田地区に向けてどのように取り組んでいけばいいか、団体の結びつきということで、普段から皆様が一堂に会してそれぞれの団体の課題などを話す機会は徳田地区であるのか。またそういったものはこれから必要になってくると思うか。

【参加者】

個別の団体の中で深まった話し合いはできていると思うが、違う団体との話し合いとか違う団体が進めている良い活動などが少し分かりにくい。それぞれの団体の方とそのあたりざっくばらんにお話し合いが出来たらいいなと思う。

【市民協働推進課】

少しずつ活動の幅が小さくなったり参加する人が少なくなったりする中で、それぞれの団体だけでは解決することが難しいことがあると思う。学校も地域も一緒だと思うが、自治会間の横の連携で、例え

イベントや行事の人が少なくなってきたから一緒にやろうといった動きや話し合いなど実際に進められていることはあるのか。

【参加者】

横の繋がりは、徳田地区での大きなイベントである盆踊り大会、地域ぐるみの運動会、それと文化祭。こういったものが徳田地区を結び付けている事業である。

古い話で申し訳ないが、ちょっと興味深い本を見つけて読んでみたところ、徳田地区の長所短所というのが、地域の先生方が昭和7年に編纂された本に書いてあった。「村民の最大の短所は共同精神に欠けており、共同精神の乏しいことは責任観念が薄く、利己の利益が中心となる。共存の意義を理解しなければ将来発展は望めない。」とあったが、私が知っている範囲ではそんなことは全然ないと思っており、共同で大きな行事も毎年順調に、そして盛大に実施されているのでそういったもので繋がっていると思う。今後この繋がりを益々広げていかななくてはいけないと思う。

【参加者】

地域の流れとしてそうしてきたのだから続けなければいけないと思うところもあるが、無くしていいものは無くしていてもいいのではないかという改革的な考えもある。

【参加者】

昔は徳田地区でも自治会長に手を挙げてやりたいという時代もあったと思うが、今はできるだけやりたくないと思っている。自治会長を無理やりやらされてボランティアで、なんで再々出ていかないといけないのかということがあって、現実の問題としては、私から2代、3代後にはやっぱりやりたくない、逃げられてしまうんじゃないかと思う。色んな行事に駆り出されると言う聞こえが悪いが、ボランティアで出てきて、やらないといけないという問題が自治会としてもあるのではと思う。

【参加者】

私も同じで、早く辞めたい、代わりたい。というのが本音である。

【参加者】

古田新出はもうすでにどんどん高齢化が進んでいるが、周りは全部丹原地区で、その中で徳田の古田新出がポツンとある。生活環境としては徳田じゃなくて丹原の中で生活して自治会活動だけが徳田である。普段付き合っている人は徳田の人じゃない訳で、今の世代は徳田で慣れているので問題ないが、次の世代を考えたときに極端な話では将来的に地区編成も考えないと我々としては立ち行きならない。周りに新しい家がどんどんできていって古田新出だけがポツンと取り残されていて、徳田の中でも考え方が違うんじゃないかと思う。

【参加者】

自治会長になりたくないというのは私も同じだが、少し他の地区と違うのは、御陣家は集会所がない。圃場整備事業とダム、水の関係で規制が入っていて、農地の転用で集会所を建てることはできないということで非常に困っている。やむを得ず丹原支所にご無理をお願いして別の場所をお借りしているが、水が使えない、トイレが使えない、電気だけの場所を応急的に借りているので、できれば何か良い方法、ご協力をお願いしたい。皆と集まって話をする場所がないというのは、自治会長としてはしんどい。ちょっと集まって色んなことを相談したいというのは皆さんあるが、なかなかできないのが現状である。

【参加者】

田滝地区も徳田から見れば、昔の地名で言うと徳田村離れ地田滝と言う。間に西川根、東川根があつて飛び地という中で徳田とお付き合いさせていただいており、ありがたいことに、1地区に小学校が2つというのは稀だと思う。しかし、校区外通学の陳情などそれなりの苦勞があつてこそできたのであつて、人間、行動を起こせば見る人は見てくれると感じている。

【参加者】

子どもを実際に通わせている親の意見としては、普通に20人、30人1学年で居るような学校であれば多分PTAの役員は6年間子どもが通っている間に1回まわってくるかこないかだと思うが、徳田の現状は子ども1人につき最低2回から3回である。子どもが小学校の間はずっと役員など何か役をしている状況がある。子どもを徳田小学校に通わせて充実した生活をサポートするためだが、やはり負担としては大きいのが正直なところである。普段仕事をしながら学校の行事にも参加しながらという中で、自由に子どものために時間を作れる人だけではなく、そんな中でもどうしても回数的な割り当てでしないといけないことが増えている。そういう負担が少し減ってくれば、もう少し気持ちが楽に学校の行事にも参加できる親子が増えてくると思う。転入されてきた子どもの親からも、こんなに親の負担があるのかという声も聞く。PTAの役、愛護班の役、地域のコミスポという役(丹原東体育協会支部の役員)

など、小学校の親が全部被っているという状況で、それを少し地域の方にも、例えば地域のコミスポは小学校の親からではなく地域の方から出していただくような協力をいただいてもいいのではと思う。運動会の準備や片づけも、やはり小学校の親がメインになっていて、小学校を卒業すればあぁやっと終わったと感じるところが正直あると思う。

愛護班とは別の話だが、私自身が愛媛新聞の販売店の仕事をしていて、地域の方々に寄り添った生活カレンダーを作りたいと思い、地域の行事を子どもたちの活躍を中心に毎月ちょっと取材させていただいている。小学校が地域の核になっているということはその取材を通じて感じている。小学生の親として負担が大きくなっていることは矛盾するが、小学校は大事という思いと、もうちょっと何とかならないかという思いで今過ごしている。地域の方に小学校に通っている子どもの親の立場にもう少し寄り添っていただけのようなフォローがあるとありがたいと思う。

【参加者】

田滝小学校は、小さい部落なので地域の方が協力してくれて子どもたちを温かい目で見守ってくれており、PTA活動等も地域の方、学校の先生に協力していただいているので、確かに人数は少なく、親が大変なところもあるが、どうにか地域の方に助けてもらって成り立っていると思う。

【参加者】

現役の小学校の親から遠ざかっているが、私の子どもが通っていたころはPTAも大変だったが、その大変さを一緒にしたからこそ今でも付き合いがあったりして、近くで繋がるって良いないつも感じている。同じ小学校に対する思いでも年代差があって、全然違うというのも今日わかったことが、すごいと思う。自治会長も皆やりたくないという言葉が聞こえたからこそ本当に必要なことと大切にしたいこと、どれを残していくべきか。協力し合うというのがすごく徳田地区にも必要だと痛く感じた。

【参加者】

タウンミーティングの形式について、後ろの方も意見を言いたい方が居ると思うのでピシッと分けずに、もっと円形で話し合うタウンミーティングはできないのか。

【市長】

申し訳ないが、手探りでスタートしていて、今年度はこういう形で各地区やってきた。どのような形で限られた時間の中でやっていくかということのを来年度のタウンミーティングでは今日の意見も参考にさせていただき考えていきたい。

【参加者】

たぶん色んな思いがあると思うので、傍聴の方からも2、3人くらいに意見を言っていた方がいいと思う。形式ばらなくていいのでは。

【市民協働推進課】

今日は色々ご意見をいただいたが、これからも暮らしやすい徳田地区に向けた地域づくりの第一歩として、地域にとって本当に大切にしたいことを皆で話し合っていくことが非常に重要だと思う。

田滝地区では、西条市全体、また徳田地区からも先行して色んな取り組みをしている。今日は色んな方々に参加していただいているが、今回のような1年に1回の市長を交えてのタウンミーティングでなくても、できれば今日のような取り組みをきっかけにして、皆で話し合いながらこれからの徳田地区を作っていければと思う。話し合いのやり方等、サポートとして支所や公民館もできることがあると思うので、協力しながら今後の徳田地区の地域づくりを進めていきたい。

4 まとめ・閉会

【市長】

人間とか人情という話があったが、実は平成29年に2人、昨年度は1人、徘徊して行方不明のままの方がいる。なかなか探し出せない高齢者を家族のもとになんとか届けたいということで、ICTの高齢者の見守りを始めた。本来ならば義理人情で、例えば福岡県の大牟田はゆるやかに見守りができているが、それは先ほどのご意見にあったように小学校の子どもたちが認知症を発症しているお年寄りにどのような声を掛けたいかを勉強している。大牟田の先進事例を県議会時代に見ていて、それを一から始めるのにどれだけ時間がかかるかと思ったので、まずICTを活用したゆるやかな見守りを始めたが、西条市でも高齢者の認知症のサポートについては、これからもより濃く取り組んで行こうとしている。様々な関係機関と協力して、子どもたちへも声のかけ方を含めしっかりレクチャーをしていく。

自治会長の皆様の意見を聞いて思ったが、正直申し上げて徳田は他の地域と違う。これは良い部分も悪い部分もあるが、率直に意見を言ってくれたことについてありがたいと思うし、一方で何とか協力して

いただく必要があるとも思う。荷がかかってしんどい、あるいは集会所がないからコミュニティの場もないということがわかったので、ここを解決していくために、今一度お力を貸していただきながらやっていきたい。

徳田小学校の複式学級の問題については、非常に悩ましい。子どもの数が少ない地区では、小学1年生で入って9年間同じクラスになる。田滝は小学校があって良かったと言ってくれるが、複式で先生はしんどいかもしれない。子どもの声がある限り小学校はなくさないという気持ちは当然、先輩達から繋いできたものであり、そう思っている。しかしながらこれからの学校、子どもたちのためにと考えたときにどのやり方が良いのかというのは非常に悩ましい。このことも含めて、徳田がどういう形を求めていくのかを話していただければと思う。例えば中川校区で言うと、小学校、中学校を無くさない方向で、1年生から9年生の義務教育学校として、丹原西中学校の中に子どもたちを入れることはできないかという話も考えられる。

皆様と、しっかり話し合わないと言口は見いだせない。是非とも今日、地域づくりの中であった参加、連携、話し合い、課題解決という形ができればと思う。行政も汗をかいて一生懸命やる。とりわけこの地域づくりは大切なことだと思っているので、今日のような話し合いが大事である。しっかり話し合いながらこの徳田地区を守っていかなくてはいけないが、行政だけでもできないので、来年度もタウンミーティングをしていきたいし、是非とも遠慮なしに様々な形で声を寄せていただければお返ししていきたいと思っているので、よろしく願います。

本日は感謝する。

【徳田地区自治会長】

大変長時間本当に感謝する。市長、傍聴者の皆さん、発言者の皆さん、徳田地区の実情が情報として共有できたことが本日の会の最大の成果でないかと思う。色々と徳田地区内でも実情が違うところもあるが、市長をはじめ、職員の皆さんにご指導いただきながら、よりよい徳田地区を作っていくために皆さんのパワーをいただけたらと思うので今後ともよろしく願います。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

